

国語

(問題)

2019年度

〈2019 H31132011〉

注意事項

- 1 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
- 2 問題は2～11ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
- 3 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
- 4 マーク解答用紙記入上の注意

- (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
- (2) マーク欄にははつきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。

マークする時	● 良い	○ 悪い	○ 悪い
マークを消す時	○ 良い	○ 悪い	○ 悪い

5 記述解答用紙記入上の注意

- (1) 記述解答用紙の所定欄(2カ所)に、氏名および受験番号を正確に丁寧に記入すること。
- (2) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
- (3) 受験番号の記入にあたっては、次の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。

数字見本	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

- (4) 受験番号は右詰めで記入し、余白が生じる場合でも受験番号の前に「0」を記入しないこと。

(例) 3825番

↓

万	千	百	十	一
	3	8	2	5

- 6 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
- 7 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
- 8 いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
- 9 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

(一)

次の文章は、作家の堀田善衛が一九五七年に発表した「日本の知識人―民衆と知識人―」の一節である（一部省略した箇所がある）。この評論は、明治の思想家江兆民の「一八八七年の著作『三酔人経綸問答』を紹介・論評するかたちで展開されるが、同書は、「南海先生」のもとを訪れた「洋学紳士」と「豪傑君」の政治的ディスカッションの形式をとっている。巻頭で「洋学紳士」は、民主主義制度の徹底、軍備撤廃、世界政府を提唱する。以下はそれに続く一節である。これを読んで、あとの問いに答えよ。

私〔堀田善衛〕には政治学のこととはもとより、政治思想についての素養が充分にあるとは到底思えない。民主化の徹底ということが、必然的に無軍備、世界政府という目標をもつにいたるものであるかどうか、私には明らかでないが、列国の帝国主義政策の猛烈だったこの時、そうして当時の、たとえば、清朝の対外認識に比べれば、比較を絶して警戒心の強かった日本の一八八七年に、民主化の徹底というところから出発して、この辺のところまで到達している思考、空想の力には、やはり素直に驚いていると思う。「酔人」の放談として笑いとばしてしまうことは、今日でも出来ないと思う。敵が攻めて来たならば、「我衆大声して曰はんのみ、汝何ぞ無礼無義なるや、と。因て彈を受けて死せんのみ。別に繆巧の策有るに非ざるなり。」という。この平和論の理論的なささえになっているものは、「アベ・ド・サンピエール」であり、「ジャン・ジャック（ルソオ）」であり、そして「カント」である。死刑廃止論もとなえられている。

イ 次のような独裁者の出現を戒めているところなども傾聴に値すると思われる。「英や、仏や、魯や、独や、汝唯汝の兒子中に豪傑と称する怪物を出さざることを是れ務めよ。不幸にして豪傑の怪物出る時は、慎で其言ふ所を聴くこと勿れ。汝若し誤りて其言を聴く時は、汝は終に汝の有と為ること能はずして怪物の有と為らん。」ドイツにはヒトラーを近頃での象徴とする幾多の豪傑の怪物があらわれ、日本には現人神にたてまつられた天皇と東条を近頃での象徴とする大小幾多の豪傑の怪物があらわれて、人民は終に人民自身の有と為ること能わずして怪物の有となってしまった。アランの『マルス―裁かれた戦争』という本にも、これとまったく同じことが戦争防止のための警告としてしるされている。

ところで、この洋学紳士の、恐らく当時としても相当に猛烈な論が、相手である豪傑君に聴き容れられる筈がない。

「豪傑の客膝を進めて曰く、」ということになる。すなわち、論議は十九世紀末ではなくて、まるで、二十世紀半ばの今日のことではないかと思われるような様相を呈する。「紳士君の言は誠に学士なる哉。学士の言は之を書に筆す可くして、之を事に施す可らず。」と。吉田茂ならば「2 阿世」と言うところであるだろう。しかし、ここに留意しなければならぬ点が二つある。

□ その一つは、豪傑君が紳士の論を駁するにあたっては、紳士が微に入り細をうがって説いた民主主義の論、君相専擅制からの人間解放の論、つまり論駁のために必要な、紳士君の側の前提を一切無視して、いきなり今日のいわゆる戸締まり軍備論、ダレス式の真空地帯論と並べておいても一向に遜色のない人間闘争本能論からの軍備拡張論が展開されるのである、3 主義の名に於て。「人の現に悪徳有ることを奈何せん。国の現に末節に拘ふことを奈何せん。事の実際を奈何せん。」すなわち、両者の手口は七十年後の今日でも大して違っていないことを知る。洋学紳士の民主化徹底論と無軍備論のむすびつき方は、実際のところ緊密であるとは申しにくいのである。そこで豪傑君は、平気で、論理の前段をすつとばすという、たとえば軍人によくあつたような論法を使い、平然として民主化徹底論の方には一切触れないで無軍備論だけに噛みつくという仕掛けになっている。

然として民主化徹底論の方には一切触れないで無軍備論だけに噛みつくという仕掛けになっている。ハ そして、留意すべき点の第二は、この民主化徹底論と無軍備論のむすびつきの弱さを、次のような質問によって衝いていることである。「仰も紳士君が諸弱小国に勧めて速に民主の制に循ひ、且つ速に兵備を撤せしめんと欲するは、其意竊に米利堅、仏蘭西の如き民主国が、其志を倣なりとし、其業を奇なりとして来り援くることを冀幸するに非ざる無きを得ん乎。」この質問を今日の情勢に適用して考えることは、読者諸氏におまかせしたいと思う。この質問のおもむきに從つて、しかるが故にメリケンと軍事同盟をむすんで庇護してもらっているのだ、と考える人もあるだろうし、また国際連合、あるいはもつと未来形では社会主義諸国が来り援くることを冀幸するに非ざる無きを得ん乎、と問う人もあるだろうと思う。

この設問に対して、紳士は、「否々一時の幸を倣として国の大事を断ずること、是れ政事家の動もすれば計を誤る所以なり。僕は唯理義を是れ視るのみ。彼米利堅仏蘭西の属が、（中略）或は他の魯英独の属が、万国均勢の義に由て我

を保護するが如きは、皆自ら彼輩の事なり、我れ何ぞ与り知らん。」とつっぱね、豪傑君がかさねて、「若し兇暴の国有りて、我れの兵備を撤するに乘じ、兵を遣はし来りて襲ふ時は之を如何。」と問うと、「僕は断じて此の如き兇暴国有ること無きを知る。」と答え、「我衆一兵を持せず、一弾を帯びず、従容として曰はんのみ。吾儕^{わがせい}未だ礼を公等に失ふことあらず、幸に責らるゝの理有ること無し。(中略)公等の来りて吾儕の国事を擾^{わだか}すことを願はず。公等速に去りて国に帰れと。」それでもなお言うことを聞かないならば、先にあげた「汝何ぞ無礼無義なるや」云々ということになるのである。

二

ながながと引用ばかりしているので、あくびの出る向きもあるかもしれないが、そういう向きの方には、一八八七年明治の二十年に日本のおかれていた歴史的地理的な状況——領土は現在と同じである——、あるいは現在同様、不平等条約に悩まされていた状況を思い出して頂き、しばらくガマンしてもらいたいと思う。洋学紳士のこの民主化徹底、文化、道義国家建設論は、この当時、この直後にいろいろなかたちで弾圧され、かつそれと同時に(という意味は次第にという時間的なものも含む)民衆の側からの積極的支持をうることが出来なくなつて行つたのである。そして、この紳士君と豪傑君の二つの意見は、十九世紀末から、——ということとは、世界史のなかに現実に乗り入つて以来、敢て言えば、そして様々の意味合いを含みつつ、今日現在まで日本の悩み^{つら}辛みの基本をなしているのである。

ホ 世に「過不足ない」といういい方があるが、過不足ないどころか、過と不足しかない、すなわち民衆にとつてのリアリティに乏しいということになりがちなのである。紳士君も豪傑君も、ともに抜群の知識人である。アジアの端つこに位置する島国として、日本はどうしたらいいものか、と物狂わしいほどに考え詰めているのである。右たると左たるとを問わず、また、幕末の攘夷論開港論の対立以来一貫して、われわれ日本のインテリの論議及び運動には、一歩進み出る、あるいは踏みはずすならば、必ずや、たとえば悲願などということが飛び出るような悲痛、あるいは滑稽なものに化してしまう危険がつけまといつて来ている。それを避けることがほとんど不可能であつた。そして、悲痛滑稽なものの影が濃くなつて来ると、必ずや、そして当然に、その論議、あるいは運動は弾圧と自壊作用との双方を用意するようになる。その原因理由がどこにあつたか、またあるか、ひとことだけ言っておかなければならないことは、この悲痛滑稽、過と不足だけしかなくならないという、その判断反省の出所は、矢張り、この両極の間に巨大なリアリティをもつて存在している民衆それ自体からであるということである。

(注) 1 「繆巧の策」…巧みな対策。

2 「アベ・ド・サンピエール」(一六五八—一七四三)…フランスの聖職者、啓蒙思想家、『永久平和論』の著者。

3 「アラン」(一八六八—一九五二)…本名エミール・オーギュスト・シャルティエ、フランスの思想家、『幸福論』が有名。

4 「吉田茂」(一八七八—一九六七)…日本の政治家、一九四六—四七年と一九四八—五四年に首相の座にあつた。

5 「君相專擅制」…君主と宰相による専制政治。

6 「ダレス」(一八八八—一九五九)…アメリカ合衆国の政治家、一九五三—五九年に國務長官を務めた。

7 「冀幸する」…万一を期待する。

8 「吾儕」…私たち。

問一 次の一文が入る最も適切な箇所を空欄 **イ** **ホ** の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

二つの意見、この二つの両極の論は、もろともに一步を進めれば必ず悲痛滑稽の領域へ踏み込んでしまうのである。

問二 傍線部1「学士の言は之を書に筆す可くして、之を事に施す可らず」の現代語訳として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。ここで「学士」というのは、大学卒業者の知識人を指す。

イ 知識人の主張は書物に著すだけでなく、現実にも適用されなければならない。

ロ 知識人の主張は書物に著されるはずだが、現実にも適用することは不可能だ。

ハ 知識人の主張は書物に著すだけでは、現実にも適用されたことにはならない。

ニ 知識人の主張は書物に著すことによって、かろうじて現実にも適用できる。

ホ 知識人の主張は書物に著すものであつて、現実にも適用してはならない。

問三 空欄 2 には、「真理や良心にそむいて、権力者や時勢にこびへつらうこと」を意味する熟語の一部が入る。
最も適切な二字の漢字を楷書で、記述解答欄に記せ。

問四 空欄 3 に入る最も適切な言葉を次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 実証 ロ 客観 ハ 現実 ニ 悲観 ホ 欧化

問五 傍線部 4 「無軍備論」の内容を最も端的に表している一文を、これ以後の洋学紳士の発言中に見出し、その冒頭の五字を記述解答欄に記せ。

問六 傍線部 5 に「この両極の間に巨大なりアリティをもつて存在している民衆それ自体からである」とあるが、その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 知識人が極論を弄するのはやむを得ないので、民衆は彼らの発言を真面目に取る必要はない。
ロ 知識人の極論にうまく対抗するためには、民衆の生活の実態に依拠することが効果的である。
ハ 知識人の極論によって、現実をわきまえた生活人としての民衆を納得させることはできない。
ニ 知識人は極論に陥ることを避けるために、民衆の存在をたえず念頭に置かなければならない。
ホ 知識人が極論に走るのには、民衆の側からの十分な理解が得られないことに原因の一端がある。

問七 筆者の考えと合致する最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 筆者は、洋学紳士の理想主義に共感しつつも、豪傑君の主張にも一理あると考えている。
ロ 筆者は、洋学紳士の「無軍備論」を、論理的に飛躍しているので、受け入れがたいと考えている。
ハ 筆者は、洋学紳士にも豪傑君にも全く賛同できず、「過不足ない」中庸な立場が望ましいと考えている。
ニ 筆者は、洋学紳士の徹底した民主化論が、民衆の支持を得られなくなったことを、当然だと考えている。
ホ 筆者は、豪傑君の軍備拡張論を、議論の手順を無視した暴論として、言語道断だと考えている。

問八 次にあげる作品のなかで、『三酔人経綸問答』と同じく、一八八〇年代（明治十三年～二十二年）に発表されたものを一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 『安愚楽鍋』 ロ 『学問のすゝめ』 ハ 『小説神髓』
ニ 『たけくらべ』 ホ 『日本之下層社会』 ヘ 『吾輩は猫である』

(二) 次の文章は、一〇七名の犠牲者を出した、JR福知山線脱線事故(二〇〇五年)と、福島第一原子力発電所事故(二〇一一年)の被害者が直面する問題の共通性について論じた八木絵香の論説(『ポスト3・11の科学と政治』所収)の一部である。なお、一部省略した箇所がある。

JR福知山線事故の「負傷者」が抱える課題は、各人の負傷状況や生活環境の違いによりさまざまである。一方で、事故から七年が経過した現在において共通する課題も少なくない。その一つは、症状が固定あるいは治癒している場合でも、将来的に予期せぬ問題が発生することはないのか、その場合の保障はどうなるのか、という負傷者やその家族が抱える強い不安である。痛みが加齢と共にこれ以上ひどくなることはないのだろうか。出産などのライフイベントに予期せぬ支障となる可能性はないのだろうか。そのような将来への不安が、被害当事者の心には残り続けている。

JR西日本は、「事故との因果関係が認められる場合には、示談後であっても補償を行う」との姿勢を打ち出している。しかしここで問題となるのは、将来自分の身に降りかかるシツペイ¹と事故との因果関係を証明することは可能か、という被害当事者の強い疑念である。これらの疑念の表出は、因果関係を証明することがきわめて困難であろうという認識が、被害当事者のあいだに共有されていることの裏返しでもある。またこの認識は、JR福知山線事故をめぐる個別状況のなかで醸成されたものであると同時に、公害裁判に代表される過去の事例から醸成された相場観であるとも言えよう。

加えてここに、被害当事者が七年という長い歲月、事故を日常生活の傍らにおいて、事故とともに生きてきた時間が重くのしかかる。

筆者が出会ってきた負傷者のなかには、事故のことなど感じさせない、一見すると平穏な日常を送っているように見えてしまう方々も少なくない。しかし、それは事故にあわなかったということと同義ではない。「些細な動作で、ごまかしながら共存している痛み²に気付いてしまう」「友人に指摘されてはじめて、電車に乗っている自分が過度に緊張していることに気付いてしまう」という形で、事故の記憶はふいに負傷者の日常に立ち上がる。負傷者の家族から見れば、家族が負傷した足をかばいながら歩いていることに気付いたとき、事故により聴力にハンディを負った負傷者が聞き取りにくそうに首を傾けたとき、そういう何気ないしぐさによって、事故の記憶がするりと家族のなかに戻ってくる。そして、事故から離れようとしている被害当事者を、いとも簡単に事故の傍らへと連れ戻してしまう。

こうして事故とともに日々を過ごす被害当事者にとってみれば、将来起こるかもしれない痛みや心身の不都合と事故のあいだに因果関係があるか、それが科学的に証明されるかどうかは、この問題を考える際の強い関心事ではない。客観的な事実がどうかであるかということは二次的な重要性しかもち得ない。科学的に証明されようがされまいが、長い年月を心身の痛みや将来の不安とともに過ごしてきた人々からすれば、将来的に事故との関連を予兆させるような心身の不調が発生したとき、医師から事故とは無関係ですと太鼓判をおされたとしても、「もし、あのとき、事故にあつていなければ」という想いを完全²に払拭³することは困難であろう。被害当事者の視線は、科学的に明らかな部分ではなく、科学的に不明瞭な部分、その一縷³の可能性に絡め取られる。そしてそこから視線を逸らすことができなくなってしまうのである。

当然のことながらこの問題についてJR福知山線事故の負傷者が主張する要望は、事故と後遺症の因果関係の証明(科学的根拠の提示)については イ な発想を持つてほしい、後遺症が発症した場合、加害当事者の側がその関係を否定できない限り、原則として事故と症状とのあいだの因果関係を認めるべきというものである。言い換えるならば、⁴ 挙証責任を被害者が負わなければならない現状に対して、科学的に因果関係を立証することはほぼ不可能であるという前提のもとに、加害者側に「事故との因果関係がないことの立証」を求めているのである。

もちろん、後者を科学的に立証することは極めて困難である。しかしその一方で、非常に特殊性の高い鉄道事故の場合には、前者の立証もきわめて困難である。そして科学的に因果関係が証明されないことは、科学的に因果関係がないということと、当然のことながらイコールではない。

福島第一原発事故における低線量被曝の問題は、長期にわたる疫学的調査等により、放射線の影響に関する科学的立証が可能であるため、JR福知山線事故の場合と完全に同列視することはできない。一方で仮に、疫学調査の結果から集団としての事故健康影響が認められないという結論が導き出されたとしても、それは、個々人にとって健康影響が存在しなかったということと同義ではない。そう考える被害当事者は少なくないのではないか。

もし将来、自らやその家族ががんという病におかされたとき、「それが福島第一原発の事故とは無関係であると言いつけるのか」という問いに対して、迷いなくYESと答えることは難しい。科学的にはその因果関係が立証されなかったとしても、もし、あのととき避難していれば、こういう対策をとっていれば、そういう後悔をしないとは言いきれない。被害者と呼ばれる人々はそう考えるのではないか。

A 被害者の側が重視することは、「科学的に事故の健康影響があるかどうか」を事後的に立証することではなく、仮に科学的には健康影響がないと推定される場合であっても、万が一自らが事故の健康影響を疑うような状況におかれたとき、「誰が、どのように、それを補償してくれるのか」をいま、提示して欲しいということである。

そうであるからこそ、被害者の支援や補償にかかわる制度構築をめぐる判断は、専門家だけに委ねられるべきではない。どのエリアにどの程度の除染が必要なのか。どの程度の線量なら避難のための金銭補償を行うべきなのかというリスク低減にかかわることから、健康調査により科学的に影響がないと判断されるレベルの線引きはどうあるべきなのか、という科学的根拠の取り扱いに関わる合意形成を含めて、被害当事者を含めたステークホルダー^(注)が協議していく枠組みが不可欠なのである。

B 一方で、その場をどのようにつくっていくかを具体的に考えるとき、そこにも課題が山積していると言わざるを得ない。その一つは、当事者同士がこの問題についてまず、率直に想いを口にすることの困難さについてである。

ある事故がおき、そしてそこに被害者と呼ばれる人々がうまれたとき、彼らを苦しめることのひとつは、あなたよりもっと苦しい人がある(のだから、我慢しなければならぬ)という社会的圧力とも呼べるものである。福島第一原発事故をめぐる諸問題で言えば、津波被災地との比較で、家や命までなくしたわけではないのだから恵まれているという形で、自宅に帰宅することもままならず避難生活を送る警戒区域内の人との比較で、自宅で生活を続けられる人々は恵まれているという形で。

C 福島県とそれ以外の地域のあいだでも同じような圧力が生じ、人々が自分の心情を吐露する機会をおしとどめるように機能する。

それは福島第一原発事故に限った話ではない。JR福知山線事故の負傷者のなかには、他者から発せられる「何面目に乗っていたの?」という何気ない言葉に深く傷ついたという方も少なくない。それは、大破した前方車両に乗車していた場合には、「(亡くなったかたも多かったのに) 元気に回復できてよかったね」という言葉で、後方車両に乗車していた場合には、「(前方車両に乗車していた人より) 怪我が軽くて良かったね」という言葉で負傷者に投げかけられる。当然のことながら、乗車位置と苦痛の程度のあいだに相関関係があるわけではない。しかしこのような形で、被害者としての苦痛を社会が軽んじる傾向があることを、被害当事者は事故後の歳月をへて経験的に学んでいる。そして、被害当事者は公に発言することを封鎖される。

(注) 「ステークホルダー」……ものごとの利害にかかわる全ての関係者。

問九 傍線部1「シッペイ」の漢字を楷書で、傍線部2の漢字の読みをひらがなで、記述解答欄に記せ。

問十 問題文の「筆者が出会ってきた」から始まる第四段落の中程には、「気が付いてしまう」と傍点つきで強調された記述が繰り返されている。本文の主旨に沿って、この傍点による強調の解釈として適切でないものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 被害者の苦痛は、それを軽んじる社会の傾向ゆえに被害者の意識に蘇ってくる。
- ロ 被害者とその家族は、十分な補償が得られないため常に痛みを感じざるを得ない。
- ハ 被害者の日常では、ふとしたきっかけで、やり過ごしていた痛みが蘇ることがある。
- ニ 被害者に自覚が無くとも、事故の記憶は痛みを回避する所作のなかに埋め込まれている。
- ホ 被害者は、日常の些細な違和感からも事故の記憶を反芻せざるを得ない状況に追い込まれる。

問十一 傍線部3「一縷の可能性」について説明している段落をこれより後の段落から選び、その最初の五字を記述解答欄に記せ。ただし段落が空欄で始まっている場合は、空欄の後の五字を記すこと。また句読点も文字数に含むものとする。

問十二 空欄 イ に入る語句として最も適切な語を次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 横断的 ロ 科学的 ハ 逆転的 ニ 大局的 ホ 法律的

問十三 筆者は、傍線部4「拳証責任を被害者が負わなければならない現状」に異論を唱えている。この「現状」の前提となっている、一般的な考え方を説明する文を、記述解答用紙の空欄を補うかたちで完成させよ。その際、次の条件にしたがうこと。

・全体を「科学的に」必要は無い。」という一文の形式にまとめること（太字の部分はあらかじめ解答用紙に記してある）。

・文の途中に「因果関係」、「加害者」、「被害者」、「補償」の語句を、必ずこの順序で用いること。

・記入欄には三十以上四十文字以内で記し、読点も字数に含めること。

問十四 傍線部5「迷いなくYESと答えることは難しい」のはなぜか。本文の論旨に照らし、適切でないものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 被害者の痛みは日常のなかに存在し続けるから。
- ロ 科学的な立証と苦痛の実態がつながらないから。
- ハ 被害者には十分な科学や医学の知識が無いから。
- ニ 科学的な証明はあくまで他者の論理であるから。
- ホ 被害者ひとりひとりとは集団と同一ではないから。

問十五 空欄 A ・ B ・ C に入る最も適切な語句の組み合わせを、次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ A また B だが C やはり
- ロ A しかし B やはり C さらに
- ハ A だからこそ B しかし C そして
- ニ A したがって B そして C ところが
- ホ A ところが B けれども C しかし

問十六 本文の主旨に合致する最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 被害者は、他者から気軽に寄せられる言葉に対し過剰に反応するものである。
- ロ 事故の原因を確定するためには、加害者と被害者の相互理解こそが重要である。
- ハ 被害者は、将来起こる心身の不都合と事故との科学的因果関係を特に気にしている。
- ニ 被害者は、事故と健康被害の因果関係の証明よりも補償の仕組みの明確化を望んでいる。
- ホ 事故の被害者を将来にわたって手厚く支援するためには、専門家の知識こそが重要である。

(三) 次の甲・乙を読んで、あとの問いに答えよ。

甲〔次の文章は、冒頭に掲げられる『蒙求』の「郝廉留錢」を題にして、上田秋成が書いたものである。〕

郝子廉、飢不得食寒不得衣。一介不取諸人。曾過姉飯。留錢席下而去。毎行飲水、常投一錢井中。

昔、飢ゑて物ほしめせず、年寒けれど、秋の虫のつづりだにささず、肩のまよひもわびしとも思さずなん。まいて塵ひとつだに世に求むべきかは。氏は郝氏にて、名を廉といふ。むべも諺りならぬ親のたまものなりけり。姉ひとり持たりき。その郷、その人の女にて、その家なんよき酒作り、田圃多く領じ、門高く、家の子あまた召しつかひて、いと賑ははしかりける。されどこの廉なる人、おのれいふがひなく、爪くはるるとにはあらねど、常に行き訪ふことも

A せざりけり。姉君よき男の子二人、女の子一人、朝夕前に置き据ゑて、よろづ足らはぬことなき世にも、ただこの弟の心ひとつをとりかねて、時々使して、何やくれの物送りやれば、いともかたじけなきよしに押しいたきて後、使の禄に取らせて、いささかの物も留めざりければ、いともすべなく、かなしう思しわづらひにけり。かど人、ものへまかる便りに訪ひにけり。いとうれしうて、北おもてなるところの、我がおましに率て行きて、年月のことども、心ぐまなく問ひみ語りみ、「いかで時々まかん出で給へ。かくておはすを、あるじも、あたらしきこととはことにしものたまへるものを、ここにも日ごろ留まり給はんには、いとうれしくなん。いたいけなる者らが、かいそそぶるはむつかしけれど、あはれと思しめぐみて、生ひたたんやうをも見つがせてよ」などいふ。あるじ外より帰り来て、「世に稀人こそ入らせけれ。酒いかで参らせざる。訪はせ給はぬことは、おのれが怠々しさに、咎むべうもあらず。ここなる人と時々申し出づる事、あたら物知りと人の羨むを、青雲の志だにおはせぬ、あいなうさうさうしき。いともいふかしきは、物まなびなん。そのかたの為此こそ承りつれ。世をまつりごつべき御門参りをもせで、深き山林に逃げ隠るるためし、我が世より見れば、いかなることとも思し知られぬよ。壁の毀れに隣の光を頼まんより、身の財もていかでかかやかさざる。何某とかいふかしき人の、錢ばかりたふとき物もなし、翼あらねど空を翔り、足なくて千里を行くなど、いとありがたきことを書きあらはせしを、人の読みて聞かせ給ふるままに、いよよますます吾が仏とも、君とも親ともかしづき奉るにや。人なみなみになりて、親祖父より住み古りし所々修理し、稲倉酒倉の町を作り添へ、あの見ゆる竹の端山のかぎりまでは、おのが田畠に領じなりぬ。あながちに世を逃れまく思さば、このわたりいづこにも住み給へ。朝夕のことどもは子どもらが貢ぎ奉らん。生ひ先ある者に、うちうち家富み栄ゆべきことを教へ給へかし。なほうちゆるびて、こよひも明日も御物語聞こえ交はすべし。にひしほりのこの頃、おのが二つの眼を照らして、多くの手足をあたあだしからせぬを、錢の神はよしと思すらん。ただ今ただ参り聞こゆべし」とて、走り出づ。姉君立ち替はり、「あゝはかくねもごろになんおはす、ひたぶるに思ひ頼み給へ。世に御為あしからじ。親の形見となん思ししめぬるには」とて、いと放ちがたく聞こゆ。ただ「かたじけなし」とのみ、黙しがたくぞ答ふ。女の童のさかしげなるが、やをら障子明けて、「おもものいとう侍り。参らせばや」といふ。「何も何も清うして参らせよ」といふ。童、御台捧げ参る。汁物、羹、何くれと取り揃へたり。礼言しつつ食ひ果てぬ。茶、くだものまで心行くあるじなり。「けふなんむねむねしきことの侍りて、このあなたまでまかん出で侍るを、ここうちかたぶきて過ぐし侍らんは、いとなめしとて。かしこに待ちわびたらんが情なし。遠からずまうで侍らん。兄の御後見させ給ふ御心ざしの、いともかたじけなきを、朽ちばみたる袖にはえも包み取へず侍る」とて、つと立ちて出づ。姉君、「あな憂。我が思ふ半ばも思さぬには、何ごとも聞こえ給はず」とうち恨む。あるじも来合ひて、「こはいかにぞや。さがたき行ひなどもかつがおほせて、やがて参るべくするを、わりなの御急ぎや。今日は放ちてん。とく給へ」とて、門送りす。姉君いと本意無げに、居させし所の塵払ふとて、席取りやりたれば、物その下にあり。あやし。取りて見たれば、錢いくらを包みて、御饗代と書き付けたり。あまりのことに憎くさへなりて、「これ見給へ」とて、見すれば、「さるにても、物知りばかり頑なしき者はあらぬ。乞食などの様なるを、おのれみにくしと思はで、ひとり世を澄ましたる、なかなかにつら憎し。生ひ先ある者ら、ゆめもの学ばすな」と、爪はじきをして蜂ぶきたる。世のことわりとは、誰も聞きつべし。姉君せんすべなくて、うち泣かれたる。かしこきにや、あらずや、知らずかし。昔もかかる人は珍かなれば、しるし伝へたりき。

〔「藤箕冊子」による〕

(注) 1 「つづり」…ほころび

2 「まよひ」…布地の糸が片寄ること。

3 「かど人」…才人。

4 「かいそそぶる」…ここでは、手習いの相手をするこの意。

5 「にひしほり」…新酒。

問十七 問題文甲の空欄

A

に入るべき最も適切な語句を次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ あに

ロ いづくんぞ

ハ すべからく

ニ なんぞ

ホ をさをさ

問十八 問題文甲の波傍線部①～⑤の「あるじ」のうち、他と意味の異なるものが一つある。それはどれか。最も適切な

なものを一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ ①

ロ ②

ハ ③

ニ ④

ホ ⑤

問十九 問題文甲の傍線部B「あたらしきこととはことにしものたまへるものを」には、用言を二語見出すことができ
る。それらをそのまま、記述解答欄に書き抜け。

問二十 問題文甲の傍線部C「ここなる人」とは誰を指すか。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマーク

せよ。

イ 郝廉

ロ 姉君

ハ あるじ

ニ いたいけなる者ら

ホ 女の童

問二十一 問題文甲の傍線部D・F・Gの意味として最も適切なものを、それぞれ次の中から一つ選び、解答欄にマ
ークせよ。

D イ 面白味に欠けあり得ないことである。

ロ 愛着もわかずうるさいだけである。

ハ もの足りず不適切なことである。

ニ 不本意でさびしいことである。

F イ 経済的負担をお願い申し上げるのは、まったく不本意だ

ロ 知らぬ顔をして通り過ぎましたなら、たいへんに失礼だ

ハ 被害をおかけするようになりますと、極めて心ぐるしい

ニ 疑問に思いつつ日々過ごしますのは、とても堪えがたい

G イ 郝廉は賢明な人物なのか、そうでないのか、分らない。

ロ 姉君はりっぱな人なのか、そうでないのか、判断できない。

ハ 世間の常識が通用するのか、そうでないのか、誰も知らない。

ニ 姉の夫は厳格な性格なのか、そうでないのか、即断はできない。

問二十二 問題文甲の傍線部E「いふ」の主語は誰か。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 郝廉

ロ 姉君

ハ あるじ

ニ いたいけなる者ら

ホ 女の童

問二十三 問題文甲の内容と一致する最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 郝廉は高潔な人物として知られていたが、姉夫婦からの支援を十分に受けることができたので、生活を維持することができた。

ロ 郝廉に欠けているものは世渡りの才であることを姉は熟知しており、夫の財産を分与することをはかるも、実現できなかった。

ハ 郝廉の生活を心配した姉が支援を試みるも郝廉は受け入れず、姉の夫の厚情をも拒否したために、あきれ果てられてしまった。

ニ 郝廉は姉夫婦の子女の教育に心を砕き、その家を繁栄させるために必要なさまざまな知識を自発的に授け、大いに感謝された。

ホ 郝廉の姉の夫は郝廉の才能をねたみ、うわべ親切なふりをしながら陰で郝廉の悪口を言いふらしたので、姉はひどく悲しんだ。

問二十四 問題文甲を書いた上田秋成の著作を次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ おらが春 ロ 猿蓑 ハ 世間胸算用 ニ 偽紫田舎源氏 ホ 春雨物語

乙〔次の文章は、問題文甲の二重傍線部の出典となっている、西晋の魯褒の「錢神論」(『芸文類聚』所収)の一節である。この文章は、司空公子と蔡母先生という二人の架空の人物の対話により構成されている。なお、問題に関連する箇所の送り仮名、返り点は省いてある。〕

公子曰、「詩不云乎、『幣帛筐篚、以將其厚意、然後中臣嘉賓、得_レ_二其心_一』。礼不云乎、『男贄玉幣禽鳥、女贄榛栗棗脩』。易不云乎、『A』。吾視子所以、觀子所由、豈隨世哉。雖曰_二已學_一、吾必謂_二之末_一也。』B

先生曰、「吾將以清談為筐篚、以機神為幣帛。所謂『礼云礼云、玉帛云乎哉』者已」。

D 公子拊髀大笑曰、「固哉、子之云也。既不_レ知古、又不_レ知今。当今之急、何用_二清談_一。時易世変、古今異俗。富者栄貴、貧者賤辱。而子尚質、而子守_レ実、無_レ異於遺劍刻_レ舂、膠柱調瑟。貧不_レ離_二於身名_一、誉不_レ出_二乎家室_一、固其宜也。』E

(注) 幣帛…贈り物。 筐篚…竹で作った容器。 贄…ここでは贈り物の意。

榛栗棗脩…榛・栗・棗は食用の木の実、脩は干し肉。 機神…機知。 拊髀…ひざをたたく。

舂…船。 柱…琴の弦を支える器具。 瑟…琴の一種。

問二十五 問題文乙の空欄 A に入る語句として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 其積如山、其流如川

ロ 臣僕者窮竭而不足

ハ 隨時之義大矣哉

ニ 得_レ時則天下隨_レ之矣

ホ 死生有_レ命、富貴在_レ天

問二十六 問題文乙の傍線部B「吾視子所以、觀子所由、豈隨世哉」はどのような意味か。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ あなたの行為の理由や根拠を見ても、決して世相に沿うものとはいえない。

ロ あなたの贈答品の価値を見ると、はたして世の常に従っているといえようか。

ハ あなたが贈り物を選ぶ基準を見れば、必ずしも時世に従ったものとはいえない。

ニ あなたの振る舞いや経歴を見ると、どうして世の流れに沿っているといえようか。

ホ あなたの行いやこれまでの来歴を見て、世の流れに従っていないといえるだろうか。

問二十七 問題文乙の傍線部C「吾将以清談為筐篋、以機神為幣帛。」に返り点を付すと、どのようになるか。記述解答欄に返り点を三つ書き加えて、完成させよ。

吾将以_二清談_一為_二筐篋_一、以_二機神_一為_二幣帛_一。

問二十八 問題文乙の傍線部D「公子拊_チ髀_ヲ大_ラ笑_{ヒテ}曰_ク」について、公子はなぜこのような態度をとったのか。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 古いことはよく学んでいるのに現世を理解せず、金にも榮譽にも縁がなくなっているから。

ロ 經典に書かれたことの真の意味を悟らず、手堅く金と名譽を得る術を心得ていないから。

ハ 金錢が物を言う世の中になったのに、それがわからず金も榮譽も得られていないから。

ニ 賢く誠実に世を渡れば自然とお金が入るのに、そのように行動していないから。

ホ 金持ちが有利な時世となったのに、その流れに逆らい清貧をよしとしているから。

問二十九 問題文乙の傍線部E「遺_{シテ}劍_ヲ刻_ヲ缸_ニ」膠_ニ柱_ニ調_{シテ}瑟_ヲ」は、いずれも同じような意味をもつ二つの故事成語である。これらが示す意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 人知れず努力を重ねて財産を築くこと。

ロ 時代の流れに棹さして器用に生きること。

ハ かたくなに旧套を守り流行を追わないこと。

ニ 故意に対応を遅らせ事態の悪化をまねくこと。

ホ 規則にこだわり状況の変化に対応できないこと。

〔以下 余白〕

